

お知らせ

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。その中で今回示します以下の研究では、患者さんのカルテの記録を使用します。

この研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテを利用することをご了解いただけない方は、下記【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

【研究課題名】： 抗がん剤誘発末梢神経障害の発症と併用薬の影響

【研究目的】

抗がん剤の中でも、特にオキサリプラチン、パクリタキセル等による末梢神経障害の発症頻度は高くなっています。現在、抗がん剤により誘発される末梢神経障害に対する治療として著効する薬剤はなく、予防法も確立されていません。抗がん剤誘発末梢神経障害は、抗がん剤治療を終えると徐々に回復するとされていますが、回復するまでの期間は数ヶ月～数年といわれています。症状に個人差はありますが、患者さんの QOL (Quality of Life; 生活の質) を考慮すると、抗がん剤による末梢神経障害に対する予防及び対処法に関する研究は意義があります。

本研究では、オキサリプラチン、パクリタキセルのいずれかを使用したがん化学療法を行うと共に、高血圧症治療薬 (ACE 阻害薬、ARB 等) を併用している患者さんにおける末梢神経障害の発症頻度や発症した後の回復期間の差を比較します。

【研究意義】

抗がん剤による末梢神経障害は、知覚神経細胞体や軸索への直接的障害作用により生じるほか、末梢血流の低下も関与しているという報告があります。

そこで今回の検討では、末梢血流改善に関与する高血圧症治療薬 (ACE 阻害薬、ARB 等) の併用が、がん化学療法により誘発される末梢神経障害に対して予防効果を示すか否かについて検証します。

【調査の対象となる患者】

・次の患者さんが調査対象です。

2014年1月～2016年12月の間にオキサリプラチン、パクリタキセルのいずれかの抗がん剤を使用したがん化学療法と高血圧症治療薬 (ACE 阻害薬、ARB 等) を併用した患者さん。対象とした抗がん剤を含有するレジメンを使用した患者さんで高血圧治療薬を使用していない患者さん。

・ただし、以下の患者さんは除きます

がん化学療法以外に末梢神経障害を生じる要因 (糖尿病、自己免疫疾患等) を合併する患者さん。帯状疱疹等の感染症により末梢神経障害を併発した既往歴のある患者さん。

【方法】

調査の対象となる患者さんのカルテから、以下の項目を調査します。

年齢、性別、体格指数(body mass index:BMI)、薬剤投与量、対象薬剤減量の有無、対象薬剤休薬の有無、レジメン、投与クール数、がん種、eGFR、ALT、AST、併用薬剤、末梢神経障害の発症状況を調査します。

【個人情報の取り扱い】

収集した情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる個人情報を除いて匿名化いたします。個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。また、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。

【研究実施体制】

研究機関：愛媛大学医学部附属病院 薬剤部

研究責任者：准教授 田中 亮裕

研究分担者：

薬剤部副部長 井門 敬子

薬剤部主任 河添 仁

松山大学 薬学部

教授 難波 弘行

准教授 秋山 伸二

特任講師 高取 真吾

実習生 内田 真美

【研究に関する問い合わせ先】

本研究からご自身の情報を除いてほしいという方は、下記の連絡先までお申し出ください。

また、本研究に関する詳細な資料を希望される方や詳細な情報を知りたい方は下記の連絡先まで連絡をお願いします。他の患者さんの個人情報の保護、および、知的財産の保護等に支障がない範囲でお答えいたします。

研究責任者:准教授 田中 亮裕

791-0295 愛媛県東温市志津川

電話番号: 089-960-5731

e-mail: akiki@m.chime-u.ac.jp